日本庭園学会ニュース

The Academic Society of Japanese Garden News

ＮＯ．１２３
令和８年（2026 年）

【速報！】令和８年度日本庭園学会全国大会
文化財庭園の植栽管理～景色を整える～

発行　日本庭園学会（会長 佐々木邦博）
〒156-8502 東京都世田谷区桜丘 1-1-1
東京農業大学 地域環境科学部
造園科学科　庭園技法材料学研究室
TEL(03)-5477-2428(粟野 隆 理事)
https://www.jgarden1992.jp/

１．全国大会概要

【日程】

５月９日（土）：公開講演会、総会、
学会賞授賞式、研究発表会、
情報交換会

５月 10 日（日）：現地検討会

【会場】

東京都立清澄庭園　大正記念館

アクセス：都営大江戸線・東京メトロ半蔵門線
「清澄白河」(E14･Z11) 駅下車
徒歩３分

東京都立清澄庭園

所在地
〒135-0024
東京都江東区清澄 3-3-9

【１日目】

09：30	清澄庭園 大正記念館にて受付
10：00 ～ 11：30	公開講演会
11：30 ～ 12：30	昼休み（理事会）
12：30 ～ 13：30	総会・学会賞授賞式・ 学会賞受賞者講演
13：30 ～ 17：30	研究発表会
18：00 ～ 20：30	情報交換会（場所：大正記念館）

【２日目】

09：15	清澄庭園 大正記念館 集合
09：20 ～ 10：45	清澄庭園レクチャー 文化財庭園としての価値、庭園石材、庭園水系、樹木管理等をテーマに
10：50 ～ 12：10	清澄庭園現地検討会 庭園内及びバックヤード見学 （非公開地区を含む）
12：10 ～ 13：30	移動・昼食
13：30 ～ 14：30	旧安田庭園　再集合・見学 （都営地下鉄大江戸線「清澄白河駅」乗車⇒「両国駅」２駅目）
15：00 ～ 16：30	江戸東京博物館見学 ＊ 2026 年３月リニューアル （入場料 600 円：自由参加）

２．大会趣旨

令和７年度は、「文化財庭園の植栽管理・育成を考える」とのテーマで、大分県内の事例について現地検討会・シンポジウムが開催されました。これに引き続き、関西大会でも京都の事例について、現地検討会･講演会を行ってまいりました。令和８年度の全国大会では、どのような景色を創り上げていくのか、清澄庭園等を事例にしつつ庭園の価値、庭園の管理と具体的な植栽管理手法等についてその実体について検討します。

３．研究発表の募集について

◆申込み方法

令和８年度（2026）全国大会における研究発表を募集します。会員の皆様におかれましては、奮ってご応募ください。発表者氏名・所属・題名・連絡先を明記し、発表概要（200 字程度）を添付のうえ、下記の「発表申込み先」までお送りください。E メールでのお申込みをお願いします。
※スケジュールの都合上、最大 11 件（質疑応答交代含む 20 分）の発表となります。公平を期すため、**申込先着順**とします。発表件数が８件以内の場合質疑応答を含めて 30 分の発表時間となります。

発表申込期限：令和８(2026) 年２月 28 日（土）
発表申込先：m-ootake-32@pref.fukui.lg.jp
担当：大竹桃子
（全国大会運営委員･福井県立一乗谷朝倉氏遺跡博物館）

◆執筆要領

全発表者分を研究発表要旨として印刷し、当日参加者に配付します。原稿はそのまま要旨集の版下としますので、下記リンクより Word の書式見本をダウンロードし、作成をお願いします。

https://www.jgarden1992.jp/zenkoku/zenkokutaikai-r8/
横書き２段組、１段あたり 25 字 40 行です。
分量は、Ａ４判で２もしくは４、６、８ページとします（奇数ページでの原稿は受け付けませんのでご注意ください）。提出に際しては、Word ファイルと PDF ファイルの両方をご提出ください。
要旨提出期限：令和 8(2026) 年 4 月 10 日（金）

４．大会参加の申込みについて

◆申込み方法

Ｅメールにて事前にお申込ください。
①氏名、②会員・非会員の別、③参加プログラム（現地検討会・情報交換会・公開講演会・研究発表会）、④公開講演会のみの参加で資料希望の場合、必要な冊数、⑤当日に連絡可能な携帯電話番号を明記ください。
※最終ページの「参加申込記入票」をご活用ください。日本庭園学会の Web サイト「研究大会 全国大会について」のページからも Word データをダウンロードできます

参加申込期限：令和 8 (2026) 年 4 月 30 日（木）
参加申込先：m-ootake-32@pref.fukui.lg.jp
担当：大竹桃子（全国大会運営委員）

５．参加費

学会員　2,000 円（学生は 1,000 円）
非会員　4,000 円（学生は 2,000 円）

※上記金額に資料代、現地検討会費用を含みます。参加費は、１日のみ参加でも同額です。
※現地検討会における昼食は各自で自由にお取りください。
※情報交換会は、別途 5,000 円程度を当日に徴収します。
※公開講演会のみの参加は、無料です。ただし、公開講演会のみの参加で資料集を希望される場合は、1 冊 1,000 円で配付します。

参加費振込期限：令和 8(2026) 年 4 月 30 日（木）

振込先（郵便振替）
・加入者名：日本庭園学会
・口座番号：００１４０－３－６５９８４２
※事前振込をお願いします。

６．問い合わせ

全国大会の内容に関する問い合わせ先
kikuchimy@tokyoireikyoukai.or.jp
菊池正芳（全国大会実行委員長）

研究発表に関する問い合わせ先
m-ootake-32@pref.fukui.lg.jp
大竹桃子
（全国大会運営委員・福井県立一乗谷朝倉氏遺跡博物館）

■

日本庭園学会オンラインセミナー 2026 春 開催のお知らせ

■オンラインセミナー 2026 春　企画主旨

日本庭園学会オンラインセミナー 2025 秋では、話題の著作物をメインにすえ好評を得ました。同じテーマでのセミナー（近年の著作と著者）は 2026 秋に企画中です。

さて、次回セミナー初回が通算第 60 回目になります。このセミナーが学会創設 30 周年記念事業として 2021 年 11 月に始まり、「庭と園に学ぶ～日本庭園・学のこれまでとこれから」（全 30 回）として開催して早 5 年。これまでを総括する時期でありますし、開催主体の日本庭園学会の今は？？という問いも寄せられます。

そこで、この春のセミナー企画は日本庭園学会と、その連携協力団体の活動紹介をすることとしました。そのことにより、参加のみなさんとこれからの、庭と庭をとりまく人々との関係、そうした人々が集う集まり（学協会）の在り方を共に考えよう、という企画です。日本庭園に関わる学協会の今とこれから、そしてその広がりを知ることのできる、いい機会です。

多くの方の参加を期待しています。

■開催期間・参加方法

2026 年 4 月 20 日（月）～ 6 月 1 日（月）の毎月曜日の 18：00 ～ 19：30 に開催します。但し、5 月 4 日（月・祝）の実施はありません。

参加費は無料、定員 300 名となっており、非会員も参加可能です。参加には事前登録が必要です。登録は、下記の URL フォームもしくは QR コードから登録してください。

申込みフォーム　URL　https://x.gd/YojRT

ＱＲコード

登録を完了すると、Zoom リンクをお知らせします。１つのリンクで全てのセミナーが視聴可能となります。学会員限定で見逃し配信も利用可能です。

■オンラインセミナー日程・講演者と演題

◆4 月 20 日（月）
佐々木邦博
（日本庭園学会長・信州大学名誉教授）
「日本庭園学会の創設と活動」

◆4 月 27 日（月）
細野　達哉
（（一社）日本庭園協会評議員・
（株）バイオカルチュラル・デザイン 代表）
「日本庭園協会の活動と清澄庭園」

◆5 月 11 日（月）
中西 玲人
（NAJGA 理事・ポートランド日本庭園共同 CEO）
「北米日本庭園協会 NAJGA の創設と活動」

◆5 月 18 日（月）
水眞 洋子
（ヨーロッパ日本庭園協会理事 EuroJGA・
ペイザジスト）
「ヨーロッパ日本庭園協会 EuroJGA の創設と活動」

◆5 月 25 日（月）
Hyukjae LEE
（韓国庭園デザイン学会長・東國大学教授）
「韓国庭園デザイン学会の創設と活動」

◆6 月 1 日（月）
杉本　宏
（日本遺跡学会副会長・日本庭園学会副会長・
京都芸術大学日本庭園・歴史遺産研究センター
日本庭園研究部門長）
「日本遺跡学会の創設と活動」

■

全国大会東京開催に向けて
江戸東京の庭・大名庭園を学ぶ本
―近世・近代・現代
そして未来にむけて

東京農業大学グリーンアカデミー　鈴木 誠

1．はじめに

令和5年（2023）の日本庭園学会全国大会が東京で開催され、大会テーマが「江戸の大名庭園～再生と未来～」であった。その後、令和6年平泉、令和7年大分と地方開催が続いたが、今年令和8年（2026）の全国大会が東京の清澄庭園で開催される。大会テーマは「文化財庭園の植栽管理～景色を整える～」である。

開催地が東京であり、東京（江戸）を代表する庭園といえば、やはり大名庭園であることから、近世の江戸、近代の東京、そして現代～未来の大名庭園について学ぶための本を、江戸東京の庭を学び親しむ本と一緒に紹介する。

2．近世の江戸の庭を学ぶ本

近世を代表する「大名庭園」を学ぶための本といえば、まずはこの用語を一般化したともいえる、①白幡洋三郎『大名庭園　江戸の饗宴』をあげたい。初版は1997年だが、出版社をかえ文庫本として2020年に再版されている。江戸時代を代表する庭として、大名庭園の造られた背景や、その利用・活用を知るための基礎文献といえる。

同じ著者による同様な本が1994年にも出ている②『江戸の大名庭園：饗宴のための装置』で47頁と小分量で概要をつかむにはいい。

もう一つ、白幡監修による③『大名庭園　武家の美意識ここにあり』（別冊太陽204号、2013）大判でビジュアルな構成であり、この冊子1冊で江戸時代の大名庭園の概要を知る事ができ、図書館で見られる。白幡も次の飛田も造園史を専門とする造園学者だが、同じ大名庭園を主題とした④安藤優一郎『大名庭園を楽しむ　お江戸歴史探訪』（2009）は歴史家が著しているので、文献に登場する大名庭園の訪問記や利用の在り方の詳細がみてとれる。

近世江戸の庭の全貌なら、2009年刊の⑤飛田範夫『江戸の庭園　将軍から庶民まで』がおすすめだ。タイトルにあるように、江戸という土地に営まれた大名庭園だけでなく下級武士や寺社そして庶民の庭の理解にもつながる。

近世江戸を鳥瞰したり、古地図で江戸の町全体をみたりするなら、⑥津山郷土博物館編『江戸一目図屏風』あるいは⑦『江戸一目図を歩く―鍬形蕙斎の江戸名所めぐり―』が同博物館で直接購入か、通信販売で手に入る。より、入手しやすく図書館にも置いてあるのは、2014年刊の⑧こちずライブラリ編『江戸寺社大名庭園』である。付録に「御江戸大絵図」という天保時代の古地図に現代東京の鉄道路線を重ねた地図がついている。また、⑨竹内正浩『カラー版 重ね地図で読み解く大名屋敷の謎』（2017）というのは、大名庭園というよりも大名屋敷の立地と江戸の町との関係を知るための本としてあげておきたい。

もっとも、近年ではこうした江戸時代の地図と現代の地図を重ねた無料アプリ、例えば⑩「大江戸今昔めぐり」等をスマートフォンに入れて、江戸時代の地図に現れるその場所と現在の地図で同じ場所を重ねつつ、様子の変化を現地で確認できるものもある。

江戸の庭や町の全体を観る視点ではなく、個別の庭園を通して江戸の庭の特徴を知ろうとするのには、名古屋大学で建築史学を講じていた⑪小寺武久『尾張藩江戸下屋敷の謎：虚構の町をもつ大名庭園 』（1989）がある。この庭園は現存しない江戸時代最大規模約13万6千坪（約44.9ha）を誇った、尾張藩江戸下屋敷戸山荘庭園が舞台となっている。また、現存する六義園を舞台とした江戸時代の庭での様子を知ることのできる、造園学者⑫小野佐和子『六義園の庭暮らし　柳沢信鴻「宴遊日記」の世界』（2017）を読むのもいいだろう。

さて、近世江戸の園芸文化の様子を知る書が出た。2025年の⑬江戸遺跡研究会 編『江戸の園芸』である。園芸を通じて江戸の庭を理解するにはいい本といえよう。専門書なので図書館で借用するのがいいかもしれない。

3．近代の大名庭園を学ぶ本

大名庭園をその時代（近世）の要請により造営し、利用してきた大名たち（有力武士階級）だが、明治維新により社会状況は変わった。その後の、大名庭園についてはその状況を嘆き、何とかしなければと庭園保全から関係資料収集、そして記録までを手掛けた酔園こと小澤圭次郎の著作物は研究者として見ておきたいが、一般の人々にはすこし専門すぎるか。しかし、やはり1915年刊の⑭『明治園芸史』に収録されている小澤圭次郎「明治庭園記」はあげておきたい。現在は⑮国立国会図書館デジタルコレクションで目にすることができるので、自宅で楽しむこともできる。この他の著作権が切れている出版物についても、同コレクションが活用できるので、おすすめしたい。

近代の大名庭園については、個別の庭園の著作はある一方で、全体像を示す著作は少ないものの、近年興味深い本が出ている。2018 年刊の⑯『大名庭園の近代』とその姉妹編ともいえる 2021 年⑰『図説　大名庭園の近代』である。前者は岡山後楽園、金沢兼六園、水戸偕楽園、高松栗林公園という、4 つの大名庭園が近代に公園となりその後どうなったかに焦点があてられている。図説の方は、上記 4 庭園に彦根・玄宮楽々園を加え、さらに小石川後楽園、広島・縮景園、鹿児島・仙厳園、沖縄・識名園も登場する。図説であり、手軽に読めるのでこちらの方をおすすめしたい。大名庭園が公共の庭園となり公園となっての利用がどのようになされてきたのか、を知る好著である。図書館で是非借りてみてほしい。

なお、個別の庭園で東京の庭として令和 8 年日本庭園学会全国大会会場となる清澄庭園については、東京公園文庫 18 として⑱『清澄庭園』があり、非売品だが⑲（一社）日本庭園協会刊『清澄庭園の魅力　～近代庭園の原点』(2024) がある。

4．現代の東京の大名庭園を学ぶ本

さて話題を現代にしぼり、まずは東京の大名庭園について記載した本を紹介したい。各庭園の通史的紹介と現況とをまとめた本に、（公財）東京都公園協会が出版した⑳東京公園文庫（全 53 巻）には『小石川後楽園』『浜離宮庭園』ほか東京都が所管する文化財庭園が網羅され、加えて『新宿御苑』『皇居外苑』といった本もある。ただし、そのほとんどが絶版で多くは 20 世紀の出版なので、図書館で借りるかもしくは、（公財）東京都公園協会が運営する日比谷公園内「緑と水の市民カレッジ 」3 階にある「みどりの図書館」で閲覧可能である。この「みどりの図書室」では、上記非売品図書を含め東京都の文化財庭園関係の報告書類も閲覧できるので、貸出はしていないが専門的な書籍を求めるなら館内での閲覧は可能である。

こうした少しレアな本に対して、近年の書としては A ①『江戸大名庭園は挑む「名園」の復活そして都市庭園の未来』は 2023 年東京都の文化財庭園を担当していた元東京都建設局公園緑地部勤務の菊池正芳が執筆している。著書の副題、「名園」の復活そして都市庭園の未来、が示すように東京の大名庭園の現状と将来についても触れる内容となっている。巻末の参考文献も充実しているのでおすすめしたい。

5．おわりに

現代の東京の庭を学ぶ一般向けの本、そして専門的な本も紹介したかったが、紙面の都合で次回ということとした。最後に、河川関係の本なので造園関係者の目にとまらないのだが、拙著（鈴木誠）「荒川・隅田川沿川の庭園」は荒川下流誌編纂委員会編著『荒川下流誌』、山海堂、2005　p.884-903 に収録されており、江戸東京は下町の庭を網羅して紹介している。

■江戸東京の庭・大名庭園を学ぶ本　一覧

①白幡 洋三郎『大名庭園 : 江戸の饗宴』(講談社選書メチエ 103) 、講談社 1997　264p.
白幡 洋三郎『大名庭園 : 江戸の饗宴』(ちくま学芸文庫) 、筑摩書房 2020　320p.
②白幡洋三郎『江戸の大名庭園 : 饗宴のための装置』、1994 47p.
③白幡洋三郎監修『大名庭園　武家の美意識ここにあり』、別冊太陽 204 号、2013 168p.
④安藤優一郎『大名庭園を楽しむ お江戸歴史探訪』（朝日新書 193)、朝日新聞出版、2009　192p.
⑤飛田範夫『江戸の庭園　将軍から庶民まで』(学術選書 44)、京都大学学術出版会、2009　270p.
⑥津山郷土博物館編『鍬形蕙斎筆　江戸一目図屏風（縮刷版)』、津山郷土博物館、2012
⑦津山郷土博物館編『江戸一目図を歩く一鍬形蕙斎の江戸名所めぐり一』、津山郷土博物館、2012　127p.
⑧こちずライブラリ編『江戸寺社大名庭園　路線図入り御江戸大絵図付』（シリーズ古地図物語）、メディアパル、2014 96p.
⑨竹内正浩『カラー版 重ね地図で読み解く大名屋敷の謎』(宝島社新書)、宝島社 、2017　223p.
⑩無料アプリ「大江戸今昔めぐり」
URL: https://www.edomap.jp　2026.01.09 参照
⑪小寺武久『尾張藩江戸下屋敷の謎 : 虚構の町をもつ大名庭園』（中公新書 953)、中央公論新社、1989 83p.
⑫小野佐和子『六義園の庭暮らし　柳沢信鴻「宴遊日記」の世界』、平凡社、2017　264p.
⑬江戸遺跡研究会 編『江戸の園芸』、吉川弘文館、2025 250p.
⑭日本園芸研究会 編『明治園芸史』、日本園芸研究会、1915、645p.
⑮国立国会図書館デジタルコレクション
URL: https://dl.ndl.go.jp　2026.01.09 参照
⑯小野芳朗・本康宏史・三宅拓也『大名庭園の近代』、思文閣、2018 472p.
⑰小野芳朗・本康宏史・中嶋節子・三宅拓也 編著『図説　大名庭園の近代』、思文閣、2021　196p.
⑱北村信正『清澄庭園』（東京公園文庫 18 改訂版)、東京都公園協会、1999　88p.
⑲小沼康子 他編『清澄庭園の魅力～近代庭園の原点』、（一社）日本庭園協会、2024 174p.（非売品）
⑳東京公園文庫（全 53 巻）（公社）東京都公園協会
「東京公園文庫一覧」URL: https://www.tokyo-park.or.jp/college/books/bunko/index.html　2026.01.09　参照
A ①菊池正芳『江戸大名庭園は挑む「名園」の復活そして　都市庭園の未来』、はる書房、2023　243p.

■

令和８年度日本庭園学会　全国大会参加申込記入票

氏名		所属			
住所					
当日連絡可能な電話番号					
会員種別	（　）会員	（　）非会員	（　）会員学生	（　）非会員学生	

参加するプログラム　＊参加するもの全てに〇をつけてください

	記入欄	プログラム
１日目 ５月９日(土)		公開講演会
		総会・学会賞受賞式・学会賞受賞者講演会
		研究発表会
		情報交換会（大正記念館）　＊参加費（5,000 円程度）は当日別途徴収
２日目 ５月 10 日(日)		現地検討会（清澄庭園・旧安田庭園・江戸東京博物館） ＊江戸東京博物館は自由参加。費用は別途自己負担

参加費

参加費	（　）	学会員　2,000 円	（　）	非学会員　4,000 円
	（　）	学会員(学生)　1,000 円	（　）	非学会員(学生)　2,000 円
資料代	冊	参加費に資料１冊分の料金は含まれています。追加で資料購入を希望される方はこちらに必要数をご記入ください。		

参加費＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿円＋資料（追加購入）＿＿＿＿＿＿＿冊×1,000 円＝　＿＿＿＿＿＿＿円
お振込み総額

参加申込み及び参加費振込期限は 2026 年 4 月 30 日（木）です。
必ず期限内にお手続きをお済ませください。

【会費納入のお願い】
学会費の納入額をご確認のうえ、納入のほどよろしくお願いします。また、過年度滞納の方は併せて納入のほどよろしくお願いします。
協力者 ： 森本・細井（植彌加藤造園株式会社）

日本庭園学会 広報委員会
加藤友規
〒 606-8271 京都市左京区北白川瓜生山 2-116
京都芸術大学 日本庭園・歴史遺産研究センター気付
日本庭園学会関西支部事務局